

ありて

わたしの未来はわたしが創る

2017.3
16号

特集 災害時、それぞれの立場で考えよう ……p2

わがまち訓練から見てきたこと

災害時に「支援を必要とする人」の立場

あったらいいな！より安心できる避難場所

■高岡市の男女平等・共同参画推進の取り組み ……p6

ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定／男女平等EXPO高岡2016

■セピア色の写真から／田中 きみさん ……p7

■センター活動登録団体紹介 ……p8

高岡市の取り組み ほか

「ありて」は自分の力で問題を解決していくイギリスの童話「アリーテ姫の冒険」の主人公の名前です。

発行／高岡市男女平等推進センター

〒933-0023 富山県高岡市末広町 1-7
(ウイング・ウイング高岡 6階)

電話／0766-20-1810 FAX／0766-20-1815

E-mail／gec@city.takaoka.lg.jp

ホームページ／

<http://www.city.takaoka.toyama.jp/gec/kurashi/kyodosankaku/center/index.html>



私たちが考えた
非常持ち出し袋
の中身です
(一人分)



【普段から携帯できるもの】

- ・メモ帳とペン(油性)・身分証明書・マスク・ハンカチ(大判)・ホィスル・安全ピン・毛抜き
- ・携帯電話(充電器)・持病薬・お薬手帳・ポリ袋(小)・現金(小銭)

【非常時に持ち出し】

- ・ペットボトル(水)・リュックサック・ヘルメット・タオル・手袋・レジャーシート・簡易トイレ
- ・非常食・運動靴(手前は新聞紙で作ったスリッパ)・サバイバルブランケット・布ガムテープ
- ・懐中電灯・ラジオ・生理用品・長袖長ズボン・下着・靴下・雨具・防寒具・新聞紙・ライター
- ・乾電池・ロープ・ウェットティッシュ・救急用品・ポリ袋(大)

災害時、それぞれの立場で考えよう

『災害はない』と願う一方で

「大規模災害が高岡で起きたら？」と考えたことはありませんか？
「ここは安全なまちだから、大丈夫」だと願いたいですね。

けれども、近年の相次ぐ大規模災害に、「ここは大丈夫」から、「ここも、もしかして…」という気持ちになりじわりと押し寄せて来ているのではないだろうか。

そこで、今、改めて『災害時の「支援する人」・「支援を必要とする人」についてそれぞれの立場で考えてみたいと思います。

健常者、障がい者、外国籍の方、乳幼児、高齢者、自分と異なる人たちと避難所で支えあい・生活していくためにはどんな支援のあり方が考えられるでしょうか。

それぞれの声をお届けし、お互いの関係に新しい視点が加われば、より理想的な「避難場所」を見出せるかもしれません。

男女平等・共同参画の観点から一緒に出来ることを考えてみましょう。

「支援する人」の立場

☆わがまち訓練から
見えてきたこと(定塚校下)

定塚校下を対象とした総合防災訓練を実施するにあたり、自治会や各種団体の代表、民生委員・児童委員、福祉活動員などが何度も集まり、打ち合わせや図上訓練などを重ね、校下内の問題や留意事項を検討しながら準備を進めました。その中で、気づいたことや感じたことをお伝えします。



① 7月19日

高岡市出前講座「災害に備える」

「まさか」は起こりうること

まずは高岡市自主防災アドバイザーによる、災害に備えるための出前講座が行なわれました。近年の自然災害や、発生時の心構え、いざ災害が起きたらどう動けばよいかを学びました。



② 8月21日
マップ作り

見えてきた課題

次のステップとして、定塚校下福祉協議会主催でスムーズな避難支援を行うために作成する福祉マップの改訂作業を行いました。

地域に関わる方々が参加して町内ごとに集まり、支援する人と支援を必要とする人をマップ上で色付けし、誰が誰とどのように関わっているか線で結ぶ作業を話し合いながら取り組みました。その中で、私たちが把握しづらい支援を必要とする方が多いという大きな課題に気づきました。



例えば、周りが気づかないうちに家族と別居をされていた高齢者の方、障がい者ではないけれども気になる方、世帯主が日本人だが、日本語でコミュニケーションをとることが難しい家族がいる方など、「本当は支援が必要な人」の声は常日頃からその人たちと交流がなければ聞くことができません。日頃から、支援する人と支援を必要とする人が関わりあえる近所付き合いが大切だと感じました。

こうして、多くの参加者が貴重な情報を出し合ったおかげで、最新の詳細な福祉マップが完成しました。



③ 8月28日

総合防災訓練実施

今後に生かせること

定塚小学校で行われた総合防災訓練には約690名の参加があり、当初想定していた450名を大きく上回りました。



初期消火訓練、煙中体験、応急給水訓練、ジャッキを使つての救出訓練などさまざまな体験は普段経験できない貴重なものでした。



頼もしい未来の防災リーダー

同校PTAによる「こども防災訓練」も同時に実施され、児童たちが骨折を想定し、腕をポリ袋で固定したり、毛布だけが人を運ぶ訓練に取り組んだりするなど、自主防災リーダー育成の第一歩として心強い姿が見られました。

今後の課題

防災訓練の最後には、避難所利用計画と生活の場としてのルールに関する説明を受けるため体育館に移動しました。しかし、体育館は2階にあるため、

車いすの方は階段で上がることができずグラウンドで待機することになりました。このことは今回の防災訓練で重要な課題を残しました。



「また今度」ではなく「今できること」をはじめめるために

訓練の準備から本番まで関わって感じたことは、「支援する側」にはまだ課題があるということでした。何か新しく始めるということではなく、そこにある声に耳を傾けることで生まれる「きこえる」世界。

「非常持ち出し袋」の重要性

災害が発生してから支援物資が届くまで数日を要するといわれます。最低3日分の食料の備蓄を心掛けましょう。「無駄になればこれほど幸せなことではない」という意識を持てば、起きるかどうかかわからない災害を「受け入れる」意識が高まります。日常的に非常食を食べて、食べたら買い足す「ローリングストック法」と言う備蓄法もあります。地震に備える必要性は知っているけれども実際の準備をしていない、危機意識はあるけれど、防災対策には至らないという方もいるかもしれませんが、一人ひとりが大切な家族の

一員としてまず、自分自身の身を守ることに努めてほしいのです。

「高岡市防災マップ」と「市民の便利帳」を身近に置き口頃から目を通す機会を持ちましょう。



必要とされる女性リーダー

避難場所での生活は日常の生活が一変します。制約された集団生活にはどうしても男女別のニーズの対応ができなくなり、不平等、不安が伴いストレスが溜まりがちになります。男性だけが運営リーダーだと、女性として言いづらいことや、災害弱者として声を上げづらいこともあるかもしれません。また、災害が発生すると、その救助や復旧活動のために多くの男性は、「避難場所」にはいない可能性も考えられます。しかし、そのようなときに「女性リーダー」が存在し、その声を聞き入れてくれたらどうでしょう? 「ここにいて大丈夫」「不安な気持ちに寄り添ってくれる人がいる」と思うえるだけでも大きな安心感が得られると考え

ます。

避難所生活を送る人の半分は女性です。他にも、乳幼児、高齢者、障がい者、外国籍の方、配慮が必要な方達、それぞれの想いを聞き入れる方法は他にもあるかもしれません。皆さんにとってより安心できる「避難場所」を運営していくためには女性リーダーの存在は不可欠です。

女性も男性も「支援する人」側にいることでより「寄り添った支援」ができるのではないのでしょうか?



●取材にご協力くださった皆さま、ありがとうございました。



コラム

2007年に発生した能登半島地震の「子育てファミリーのための防災ハンドブック」では、『仮設住宅に住んでいる子ども達で結成した「元気もりもり隊」がお楽しみ会をしてくれて嬉しかった』という報告もありました。「支援される人」が「支援する人」になってくれた良い事例だと思います。

出典：(輪島市子育て支援センター) 2014.3
『過去から学ぶ 未来の助け合い』

高岡市内に住む80代と90代の女性にお話を伺いました。

1 日頃の備えについて

- 特に何もしていません。
- 保険に入っている程度です。

2 いざ災害が起こったら

- 何を持って出るかも、どこが避難所かも知りませんが、何かあれば隣の人が連れて行ってくださると思うのでお任せするつもりでいます。
- すぐ近くに家族がいるのでその点は安心です。

3 避難しなくてはいけなくなったら

- 飼い犬のことは心配ですが、いざとなれば置いていかななくてはいけないだろうと覚悟しています。
- 近くに住んでいる家族がきてくれるだろうから、若い人に任せますが、避難所まで遠いのが不安です。

4 避難所では

- 食べ物はあまり心配していません。心配なのはトイレです。
- 避難所では何でも食べなくてはいけないと思っていますし、係りの人の言われるようにしなくてはいけないとも思っています。トイレもまあ何とかかなるでしょうが、男の人には言い難いこともありますからねえ。



子育てサロン「かंगाるーまま」に参加した0歳から2歳までの乳幼児を持つ保護者にお話を伺いました。

1 日頃の備えについて

- しないといけないと思うけどしていません。
- 持ち出し袋も準備していないし、避難場所も知らないです。
- おやつやオムツなど子どもに必要なものは揃えてあります。

※持ち出し袋を準備しているママは14人中1人でした。

2 いざ災害が起こったら

- 子どもが保育園にいるときなど離れているときに起こったと思うと心配です。
- 家族の安否確認が第一です。夫とは携帯で連絡をとります。
- 安全な場所に移動して、テレビ等で正確な情報を収集します。



3 避難しなくてはいけなくなったら

- 子どもの必要なものをまず持ち出そうと思います。
- 子どもが3人いるので、ひとりでどうやって連れて行こうかと不安です。

4 避難所では

- 食べ物やオムツなど、必要なものが手に入るか心配です。
- 子どもが泣いて周りに迷惑をかけないかと心配です。
- 子どもが小さいので衛生面が気になります。

インタビュー

総合防災訓練に参加して



小林 章さん
順子さんご夫婦

小林 章さんは左半身が不自由なので車いすを使用し、妻がサポートしている。
(高岡市在住)

先日、校下の防災訓練に参加しました。グラウンドで地震の揺れ体験や、煙中体験が行われていました。体験してみたのですが、車いすだったためか参加できませんでした。介助者もいるので声をかけてもらえれば参加できたかなと思います。

その後、体育館でお話がありました。2階にあるので行くことはできませんでしたが、車いすごと運んでもらうには何人かの協力が必要になるので、お願いしようにも、そんな余裕はないようでした。他の施設にあるように、



2階までスロープになつていれば介助者だけで動けますし、高齢者にとっても、大変安心なのではないでしょうか。トイレにも困りました。体育館には

洋式トイレがないので、校舎を開けて利用させてもらいましたが、やはり段差があつてスムーズにはいきませんでした。

避難所になる施設には手すりのある洋式トイレが不可欠だと思います。また、段差があるところにはスロープが必要です。やはり、トイレの問題は大きいです。

健常者の方たちには気づかれないことはたくさんあります。困ったことがあれば自分たちから声を出して、「こうしてほしい」と伝えることが大切だと思います。

近所の人は災害時にサポートしてくれますが、日中は留守ですし、自力で逃げなくてはいけないこともあるだろうと思うと不安があります。お父さんはいざとなったら「置いていけ」というタイプですが、どんな状況でもいっしょに避難するつもりです。

今回は小学校でしたが、第一避難場所は中学校なので、中学校の様子も知りたいと思います。見学できる機会があればいいのですが…。

インタビューを終えて

乳幼児、高齢者、障がいのある方など、災害時には、必要な支援が必要な人に適切になされるのが大切だと思います。「手伝いましょうか」、「お願いします」と、気軽に声を掛け合える環境づくりが重要だと思いました。

「支援を必要とする人」の立場



インタビューにお答えいただき
ありがとうございました。

～インタビューを終えて～

私たちが出来ること

災害を想定して「防災訓練」を行い日頃に備えることは、日本人と外国籍の方たちでは意識に違いがあるようでした。

また、お話を伺つ中で、外国籍の方ができるだけスムーズに避難できるように、日頃のコミュニケーションが大切だと感じました。

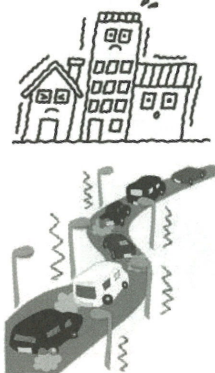
私たちが皆さんへお願いしたいこと

近年日本では災害が増えています。そこで、皆さんにこれだけは知っておいてほしいことがあります。

①ご自身の「避難場所」がどこか日頃から知っておいてください。

②一斉に自家用車で避難すると道路が渋滞になりパニックになります。これは大変危険ですので災害が起こればまずは、自家用車を使わずに「避難場所」へ向かってください。

防災訓練



②高岡にお住いの外国籍の皆さんは地区の「避難場所」をご存知だと思いますか？

自治会に入っている人と、そうでない人では異なると思います。

自治会に入っている世帯は回覧板の案内で「避難場所」や「防災訓練」などの情報を知ることが出来ます。ただ、その内容が理解できなければ回覧板にハンコを押すだけになります。また、自治会に入っていないても言葉の壁で参加することはほとんどありません。

自治会に入っていない場合、マンションやアパートに住んでおられる方は、「避難場所」がどこか把握していない方が多いです。

中には、一時的に高岡に滞在している方もいらっしゃると思います。その場合は、生活することに精いっぱい、事前に「避難場所」を確認する余裕がないのが現状だと思います。

③実際に災害が起きたときにどうするかを家族で話し合っていますか？

私たちは災害が起きたときにどうするかを考えます。ですから、普段から話し合う機会は少ないと思います。もし、その家庭にお子さんがいらっしゃる

れば学校で「避難訓練」に参加しますが、それでもやはり家庭で話す機会は少ないかもしれません。

インタビュー

你好！
こんにちは！



野原 恵美さん (中国出身)
高岡市外国人相談員

④今後「災害」が起きたときに「こんな避難場所があればいい」という希望はありますか？

既に行われている自治会もあるかと思いますが、外国籍市民のマップを作ったり、情報の収集をしてほしいと思います。なぜなら、外国籍の私たちは災害時に支援を必要とする「災害弱者」でもあるのです。

避難所では、障がいのある方や、高齢者は「支援を必要とする人」とされても、私たちは「災害弱者」とは扱われないことが懸念されます。そう考えると避難所へ行くことにためらいを感じてしまうのです。

高岡市には2、877人の外国籍の方が生活をされています。(平成28年12月末現在)
今回はその方たちの相談員として、自身も海外ご出身の木口実さん(ブラジル出身)と野原恵美さん(中国出身)に「防災」に関しての日頃のお考えやご意見を伺いました。

①「防災」について関心はありますか？

母国にはそのような意識がないので関心は薄いです。

国土が広いので他地域で災害が起きても、すぐに自分の地域がそうなるという危機感を感じにくい方が多いと思います。日本人の皆さんのように前もって備えるという感覚はあまりありません。

インタビュー

Boa tarde!
こんにちは！



木口 実さん (ブラジル出身)
高岡市外国人相談員

編集員が考えてみました



あったらいいな！より安心できる避難場所

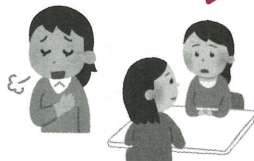
足を伸ばして寝られて、
持病の診察が受けられると
いいな



女性専用の
物干し場が
あるといいな



育児部屋とは別に
ホッとできる母親
の空間がほしい



トイレは
女性専用の階
があれば安心



入浴、シャワーが
できるといいな



授乳室も
ほしいよ



赤ちゃん
が思いっ
きり泣い
てもいい
育児部屋
があれば
いいな



高齢者の専用
スペースが
あればいいな
スロープもあ
ればいいな

みんなが集える場所
があるといいな



相談できる
所があると
いいな



家族ごとのスペースが
満たされていると安心
できるな
自炊もできるといいな

専門的なスキル
や支援できることを伝える場が
あればいいな



話し相手がいるといいな

高岡市の男女平等・共同参画推進の取り組みを紹介します

ワーク・ライフ・バランス推進事業所認定

高岡市では、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)が実現した社会に向け、仕事と生活の両立に配慮した働きやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいる事業所を、ワーク・ライフ・バランス推進事業所として、平成24年度から認定しています。

平成28年度(平成29年1月末)は新たに次の事業所を認定しました。

有限会社 技建工業／昭和建設 株式会社／
大朋建設 株式会社／西村工業 株式会社／
富士コンテクノ 株式会社／フジサワ電機 株式会社
株式会社 フジ創ホーム／株式会社 室屋
山辺事務機 株式会社／有限会社 ワイズ工業
(50音順に記載)

男女平等EXPO 高岡2016

高岡市の男女平等・共同参画に対する姿勢を市内外に発信し、実現に向けての機運を一層高めていくため、市民、事業者、各界各層の団体と協働で、毎年実施しています。

本年度は、「勇気を出して育休取得!! ~みんなですめるワーク・ライフ・バランス~」をテーマに、しかけ絵本技師の平塚啓さんに「男性が育児休業を取得した方がいい5つの理由」と題して講演していただきました。講演後は参加者の皆さんと「高岡大仏」のポップアップカードを作りました。



セピア色の写真から

「美容を通して輝き

輝かされた女性」

～富山県美容界の母～

田中 きみさん

(一九〇一～一九九一年)



高岡市桐木町にあった『田中美容院』を創業した田中きみさん。ゆかりのある方々のお話と共に田中さんの生涯をふりかえる。

【親の背中をみて】

田中きみさんは西砺波郡若林村下中(現小矢部市下中)で三人姉妹の長女として生まれた。大所帯だった家で休む暇なく母親の姿を見ていつも「母に楽をさせてやりたい」と思っていた。15歳になって富山市の髪結店へ修行に入り、もともと手先が器用だったことと人一倍努力家であったので一年半で一通りの仕事をこなせるまでになる。大正7年、芸者が多い高岡の桐木町で美容院を始める。その当時の髪結いは客の自宅などへ赴いて髪を結っていたが、田中さんは自宅の一階の一間に鏡と椅子を置き、客に訪れてもらうという今の美容店の形を取り入れた。10分から15分で日本髪を結い上げる早さと丁寧さが評判となり、毎日大勢の客が訪れた。翌年結婚、4人の子宝に恵ま

れた。

【時代の流れと後に続く人のために】

田中さんが高岡で開業した頃はまだまだ日本髪を結う女性が多かったが、時代が髪型の変化を求めている。そこで最新美容技術習得するため、東京の山野髪結所(現在の山野美容専門学校)へ通い、山野愛子の身の回りの世話をしながら修業した。そこでパーマメントを取り入れることを決断。富山県で初めてパーマメントをする美容室となる。戦争中は一時期営業をストップさせられたこともあったが、店を守り通した。戦後、長男(直信さん)夫婦に跡を継がせるべく、長男は山野髪結所へ、長男の妻は自ら店で教え込んだ。

パーマメントの技術が進化し、保健所から組合設立を依頼され昭和24年に富山県美容同業組合の設立にこぎつけ、初代組合長となる。翌年、弟子入りしてその後店を持てるという従来の制度がなくなり、美容師になるためには学校に通って国家資格を取得することが必要となった。しかし、富山県に

は当時美容学校がなく、資格取得のためには一定期間東京の美容学校へ通わなくてはならず、負担が大きかった。そこで田中さんは地方にいても資格が取れるよう尽力し、通信教育制を確立した。昭和32年には富山県美容環境衛生同業組合連合会が設立され、こちらでも初代理事長となり、名実ともに県美容界のリーダーとなっていた。そのころ夫は他

界し、開業した富山店、高岡店は長男夫婦に任せていた。好奇心旺盛な田中さんは50代後半で旅館経営に乗り出す。子どもたちの支援を受けて富山市に「神通荘」をオープンする。美容院と同様、富山を代表する旅館となった。平成3年9月2日朝、いつもの様にお客に会うために髪を結い、化粧をし、着付けを終えたがその場で倒れた。それが旅立ちの化粧となった。他界するまで生涯現役で仕事を続けた。89歳だった。

【孫弟子さんからみた田中ファミリー】

わたしち弟子も家族のように受け入れてくれ、指導してくれた美容院。ただ厳しかった。お客さんに合わせる事が第一、時間との戦いで早く綺麗に仕上げることを教え込まれた。今も田中美容院で働いた人は家族のように仲がいい。とても懐の大きいファミリー。

【お孫さんからみた田中さん】

おばあちゃんと共に忙しく働く両親

はやはり家庭のことはなにもできなかった。自分もその姿をみて美容師になりたくないと思っていたが、やはり同じ道を歩んでいる。最高の指導者がすぐそばにいて習わない手はない。おばあちゃんの仕事の早さは今もお弟子さんたちに受け継がれている。

【長男からみた田中さん】

仕事のことだけしか考えていなかった。紳士服の仕立てをしていた私を呼び戻したのも、美容院のため。家庭人という感じはまったくなかった。思い立ったら即行動という人だったので、とても振り回された。母に頼まれたら断ることができなかった。それも必ず成功する、母が考えたことは大丈夫だと確信していたから。母にかかったら誰もかなわないと思っていた。

両親を楽にさせたいと美容の道を歩み、誰よりも輝いた田中さん。その思いは引き継がれ、後を任せたあとは子どもたちに支えられて旅館業を始め、再び輝いた。美容師が女性を美しくする美容の世界と同じように、田中さんも家族に支えられ美しく輝いた。

出典

- ①高井 進編(一九八八)『富山県女性史』
鬼と女は人に見えぬぞよき、か(桂書房)
- ②「となみ野ストーリー」
第36回女性の美を求め続けた美容師
(e-tonamino.com) (よみものサイト)



高岡市男女平等推進センター 活動登録団体紹介

トークサロン・エンジェルの会

エンジェルとは、心も体も美しい女性、または聞き分けのいい子どもと説かれています。

日頃、私たちは日常生活の中で様々な悩みや問題・課題を抱え、背負いながら生きています。エンジェルの会は、自分達それぞれの体験を通し、それを生かしながらお互いの苦しみ、辛さを平等の立場で話し合い、分かち合い、助言し合うピアカウンセリングに重点を置いています。そして、心の内を開かせて頂く傾聴ピアリスニングを経て参加された皆さんが少しでも明るく前向きにそして、心も体も軽く強くなやかなエンジェル・ハートになっていただくことを私たちは目指し願って活動しています。



(代表 宮崎友理子)

オリーブの会

ヘルスカウンセリング勉強会を月に1回、第4日曜日に開いています。

ヘルスカウンセリングとは、筑波大学院名誉教授・宗像恒次博士が開発された健康行動科学に基づくコーチング・カウンセリング・セラピー技法であるSAT(サット)法を中心としたカウンセリング分野です。構造化された(Structured)イメージ、ひらめき、連想、直観(Association)と言う右脳活動を上手に促し、問題解決を図る技法(Technique)です。構造化されていることにより訓練すれば誰にでも再現可能な技法です。即効性があり、幸せ・健康づくり・さまざまな問題解決・自己成長のために大変有効な心理療法です。

オリーブの会では共に学ぶ仲間を随時募集しています。興味のある方なら、どなたでも参加できます。一緒に学んでみませんか？お問い合わせお待ちしております。

(代表 四十住千加子)

あなたのグループも男女平等推進センターに登録しませんか？

男女平等・共同参画の推進に関する活動を展開しようとする団体は、センターをグループ・団体の拠点として活用できます(交流スペース、活動用ロッカーの無料利用等)。

センターのホームページで、登録方法や、上記以外の登録団体・グループも紹介しています。

相談室のご案内

相談室専用電話

(0766) 20-1811



●専任相談員が、DVや生き方、夫婦の問題などいろいろな相談を受けています。

【予約が必要です。】

●相談時間 月・火・水・金・土 9:30 ~ 16:30
 土のみ 14:00 ~ 20:00

※日曜・祝日・毎月第4月曜・年末年始はお休みです。

高岡市男女平等問題処理委員会

高岡市では、男女平等・共同参画の推進に関する市の施策に対して苦情がある場合、また性別による差別的取扱い等により、人権侵害の問題が生じた場合には、「高岡市男女平等問題処理委員会」へ申し出ることが出来ます。

制度、内容については、男女平等・共同参画課へお問い合わせください。TEL (0766) 20-1812

(加藤 雅子) 心を込めて4人で編集しました。読まれた方、ご感想を！

(川渕 郁子) 女性の視点からの防災を考えてほしいと思って作りました。

(林 由美子) 一筆啓上したため候ふ。「情報伝達の難しさ。井戸端会議は気楽なのに…。」

(室谷 弘子) みんなで意見を出し合ってレイアウトも試行錯誤しながら、編集作業に取り組みました。

～編集員ひとことメッセージ～



高岡市男女平等推進プラン情報誌「ありて」は、男女平等・共同参画の推進を目的に、公募による市民編集員が企画・編集しています。

ありて キャラクターデザイン：山崎 可菜さん



「ありて」の感想をお寄せください

- ◆QRコードから
 - ◆E-mail/gec@city.takaoka.lg.jp
 - ◆FAX/0766-20-1815
- いずれかの方法でお願いします。

※「ありて」のバックナンバーは、下記のホームページでご覧いただけます。

ホームページ/
<http://www.city.takaoka.toyama.jp/gec/kurashi/kyodosankaku/center/index.html>